

市民と市長のタウンミーティング（要旨の報告）

日 時：令和7年6月28日（土） 15時00分～16時30分

場 所：ポラリスROOM3

テ ー マ：市政全般

参加人数：11人

出席者：古谷田市長、総合政策課長、マーケティング課長・広聴係3名

タウンミーティングの概要、昨年度の意見に対するフィードバックを説明後、参加者から意見聴取。

【意見】

- ・ 環境問題について、サステイナブルな社会の実現には、3R（Reduce リデュース、Reuse リユース、Recycle リサイクル）が重要である。
- ・ 大和市に限ったことではないが、プラスチックの消費が多い。
- ・ プラスチックごみも資源として回収しているが、焼却処分している自治体が多いと聞いている。「官民連携」で取組を強化できないか。
- ・ 大和市はプラスチック資源について、どのように対応しているのか。

【市長】

- ・ 環境問題は重要と捉えているが、現状の環境管理センターの設備で資源化をさらに進めるのは難しい。
- ・ 横須賀市の動き（プラスチック再商品化事業）を見習っていきたい。
- ・ プラスチックごみは、以前は全て焼却していたが、現在は容器包装プラスチックについてはリサイクルを行っている。

【意見】

- ・ NPOで子ども食堂を運営しており、食品ロスの削減にも取り組んでいる。
- ・ 非常食を入れ替える際に大量の食品ロスが発生しているが、非常食をアレンジして美味しくすれば食品ロスを減らすことができる。
- ・ こういった活動は子どもと防災を学ぶことにもつながるので、市と一緒にできればと考えている。

【市長】

- ・ 市役所で備蓄している非常食は、賞味期限切れ前に配布している。
- ・ 家庭での備蓄食料は食べきれないと残ってしまう場合もある。
- ・ 食育の観点からも、子ども達に良い学びとなる。
- ・ 地元の野菜を使うと、フードロスにも有効となる。
- ・ ご提案を関係部署に伝え、直接ご提案いただけるよう調整する。

【意見】

- ・ つきみ野周辺の境川沿いの道は、町田市側はところどころ灯りがあるが、大

和市側は真っ暗で怖くて歩けない。

- ・ せっかく横浜F・マリノスのホームタウンになっているが、検索してもすぐ出てこないのが、情報が少ないと感じる。

【市長】

- ・ 境川沿いが暗いことについては、同様のご意見を複数いただいております、状況は承知しています。
- ・ 境川沿いのサイクリングロードは相鉄線のあたりで途切れているので、藤沢まで繋がるように整備してマラソン大会を開催できたら面白いと思う。
- ・ しかしながら、財政が大変厳しく、ご提案について現時点での対応は難しい状況であり、将来的に少しずつ整備していければと考えている。
- ・ 横浜F・マリノスのホームタウンについては、情報の押し出しが弱いのもかもしれない。
- ・ 今年の夏に子ども達に関するイベントを開催するので、市民に分かりやすく発信していきたい。

【意見】

- ・ 新総合計画は“健幸”や“つながり”が強調されている。
- ・ 現状“つながり”に関しては、希薄だと感じており、私自身も近所に住むかたの顔も名前も分からない状況で、自治会やPTA活動も行っているが、必要性は感じていない。
- ・ “つながり”は重要であるが、ビジョンだけでは実現が難しいと考える。
- ・ ごみのない街を例にすると、「ごみを1日に1個拾う」といった具体的な行動目標を掲げると実現に向けて1歩近づく。
- ・ “つながり”が重要であることは分かっているが、実現できていない状況において、市はどういった具体的な目標を考えているのか。

【市長】

- ・ 前市長は総合計画の将来都市像に“人の健康、まちの健康、社会の健康”を掲げ施策に取り組んでいたが、私はそれをさらに進化させて“健幸”とした。
- ・ 幸せの形はひとそれぞれであるが、私はハーバード大学のロバート・ウォールディング教授による研究(ハーバード成人発達研究)を参考にしている。
- ・ 80年を超えて続くこの研究の中で幸せの重要な要素として、「よい人間関係」であることが明らかになっている。
- ・ 人と人のつながりが「よい人間関係」を生み出し、その逆、つながりのない状態は、孤独と孤立を生み出し幸せを感じるができない。
- ・ 外に出て人と触れ合うことが重要になることから、人と人がつながる居場所づくりを進めていきたいと考えている。
- ・ 自治会などのイベントもつながりを生み出すものであり、こういったものも広めていきたい。
- ・ ごみ拾いについては、大谷翔平選手の考え方「ごみ拾いをすることは運を拾うこと」というマインドを大和市でも広めていきたいと考えている。

- ・ ごみ拾いがポイ活につながるような取組も職員と一緒に考えているところである。
- ・ ごみ拾いの啓発イベント「スポ GOMI やまとカップ」や「LUCKY GET 大作戦」にも取り組んでいる。
- ・ 市の取り組みを広めていくには広報が重要となるので、これからは、YouTube を活用した広報を積極的に行っていく考えである。
- ・ また、本年5月から広報やまとを自治会配布から全戸配布に切り替え、情報発信力を高めている。
- ・ これは、現在、自治会加入率が6割を切っており、4割の世帯には広報やまとが届かない状況を踏まえ、全戸配布していた「やまとニュース」をやめて、予算を削減したうえで切り替えたものである。
- ・ デジタルと紙媒体を両方活用しながら、市民の皆さんに分かりやすい情報発信を積極的に行い、つながりを生み出していきたい。

【意見】

- ・ 大和市障がい者福祉計画審議会における意見により、大和市障がい者福祉計画（施策3－6 経済的自立への支援）に「心身障害者医療費助成制度について、引き続き国による全国一律の制度の創設や県の補助対象拡大を要望していくとともに、市の助成制度の見直しを検討します」という方向性が示された。
- ・ 心身障害者医療費助成制度の改善（精神障がい者に対する助成対象について、1級の通院費のみを2級までかつ入通院までを助成対象範囲にする）については、陳情や請願も続けてきており、約800名の署名も集まっている。
- ・ 10年前からこのことを訴えてきたがなかなか進展せず、古谷田市長になってようやく計画に方向性が示されたことに当事者や家族は安堵している。
- ・ 本計画は5年計画なので、すぐに達成されるものではないことは承知しているが、隣接する、相模原市、海老名市、藤沢市は既に対応されており、大和市も同等となるようあらためてお願いする。

【市長】

- ・ 心身の健康については、市議会議員時代から力を入れており、市長になってからもその考えは変わっていないが、財政的に厳しい状況があり、実現に至っていない状況を申し訳なく思っている。
- ・ 今の時代は多種多様な情報がスマートフォンひとつで簡単に触れられる状況にあり、脳に伝達される情報量が多過ぎるため、心のバランスを崩すかたも増えている。
- ・ そういった中で、心の健康を保つため、健康増進普及啓発において睡眠と笑いに着目した市民の健康づくりを推進しており、新総合計画（将来都市像実現に向けた目標1「いつまでもみんなが元気でいられるまち」施策分野 1-1 健康づくり・健康増進 施策の方針）にも、睡眠に関する方針（市民が自らの健康状態を把握し、適度な運動、バランスの良い食生活、十分な睡眠など

を心がけて生活できる環境を整備します。)を入れている。

- ・今年度は、こもりびと当事者や家族を支援するため、居場所の常設化や家族の集いを開催するための予算を計上している。
- ・まずは、外に出るところから始め、人とのつながりを感じてもらうことで交流が生まれ、そこから就労につなげていければと考えている。
- ・当事者、家族が安心できる環境を整備することを目指しているので、皆さんの声を大切にしていきたい。

【意見】

- ・長男が障がいですが必要な生活をしている。
- ・小中学校の特別支援学級でお世話になり、この場を借りて関係各位に深く感謝申し上げる。
- ・“幸せ”や“つながり”というキーワードが出ていたが、今回の提案は障がいのある子どもや若者の生きがいにつながるものと考えている。
- ・大和シルフィード、横浜F・マリノスのホームタウンである大和市はスポーツによる市の活性化を推進していると認識している。
- ・シルフィードによるインクルーシブのイベント(大和シルフィードインクルーシブスタジアムDAY～Football For ALL～)を通して、パラスポーツにも力を入れていることも承知している。
- ・パラスポーツのメニューに電動車椅子サッカーを加えていただきたい。
- ・電動車椅子サッカーは、マリノスも力を入れており、横浜F・マリノスカップ電動車椅子サッカー大会も開催されている。
- ・パラスポーツに理解のあるシルフィードの協力も得られると思うので、ぜひ大和市でも電動車椅子サッカーの大会を開催してほしい。

【市長】

- ・横浜F・マリノスのホームタウンということで、中山社長とは令和6年1月の広報やまと新春対談やマリノスの本社に伺ってお話をさせていただいている。
- ・マリノスの本社には、電動車椅子サッカーやブラインドサッカーなどができるスペースがあり、パラサッカーに力を入れていることを中山社長と情報共有している。
- ・私も障がいのあるかたが、スポーツを通じて社会参加することはとても大切と考えており、ご提案の電動車椅子サッカーについても、関係部署と情報を共有させていただく。
- ・市のスポーツフェスタは、健常者だけでなく障がいのあるかたも参加できるようにしているので、今後、ご提案を含め新たな種目を増やしていけるか検討していきたい。

【意見】

- ・電力の浪費について憂慮しており、特に商業施設の照明は明るくし過ぎてい

るのではないかと思う。

- ・ 民間企業のことなので、市長がなんとかできるものではないのは理解しているが、電力消費量を抑えて二酸化炭素の排出を減らしていく脱炭素社会を目指すことは必要と考えている。
- ・ 郵便局の配達バイクのヘッドライトは車両を認識させる意味もあるとは思いますがあまりにも眩しすぎる。

【市長】

- ・ 民間企業の営業に関わる部分については、市として言うことができないが、電力消費量を抑えていくことは大切であり、環境への負荷が少ない社会の実現を目指していかなければならない。
- ・ 電気の使用をできるだけ止めて、ロウソクなど電気に頼らずに過ごす日を作ることを、商店街などに呼び掛けてみるのもよいかもしれない。
- ・ 世界一貧しい大統領と呼ばれたウルグアイのムヒカ大統領は、国連の会議で豊かさを追い求める消費社会の在り方に警鐘を鳴らした。
- ・ ムヒカ大統領のスピーチは非常に考えさせられるものであった。
- ・ 行政だけではなく、商工会議所、商店会、事業者、市民の皆さんと協力して、脱炭素社会や循環型社会の形成に向け取り組んでいきたい。

【意見】

- ・ まちづくりに関連して、現在、マンションの老朽化が問題になっている。
- ・ 新総合計画の中では、まちづくりの方向性として「商業・業務機能や良質な中高層住宅など様々な都市機能が集まり、活力やにぎわいを生み出す「やまと軸」では、さらに便利で暮らしやすく、都市の魅力を備えた環境を整えていきます」とされており、一方で、公共施設の老朽化についても課題として提示されている。
- ・ 私が住んでいるマンションも老朽化が進んでおり、長寿命化するか、建替えるか、検討を進めている段階である。
- ・ 昨年度、神奈川県住宅整備課の事業（優良建築物等整備事業：マンション建替タイプ）を活用し、アドバイザーを派遣いただいて検討している。
- ・ 県の事業は実績が少なく、大和市内は0件である。
- ・ 大和市初の県事業を活用した建替えに向けて検討している。
- ・ マンションの建替えは、幼稚園、薬局、クリニック、避難所、ヘリポートなどの併設により都市機能を向上させる力もあり、福岡市は都心部機能更新型容積率特例制度を設けて容積率を緩和して、都市機能を強化している。
- ・ 公共施設の老朽化対策と合わせて、福岡市のように都心部における民間建築物の更新期等を捉え、運用基準を定め、税制・融資・助成等の既存制度を効果的に活用することにより、民間の力を引き出しながら、機能更新を促進し、都市機能強化と魅力づくりを推進することを提案する。

【市長】

- ・ マンションの老朽化対策として、長寿命化するか、建替えるか、特に水回り

の対策が難しいこともあり、課題となっていることは認識しており、国や県に働きかけていかなければならないと考えている。

- ・ 公共施設は全体的に老朽化が進んでおり、市役所本庁舎は50年を超えている。
- ・ 本庁舎建築当時の人口は約14万人で、現在より約10万人少なかった。
- ・ 災害が発生した場合、本庁舎に災害対策本部の設置はできても、避難者を受け入れるスペースは確保できないのが実情である。
- ・ 市役所本庁舎を長寿命化するのか、建替えるのか、判断しなければならない時期が迫ってきており、職員と話し合っている。
- ・ 大和市はまちのポテンシャルがどんどん上がってきているので、市民の皆さんが暮らすマンションの老朽化対策については、国や県と議論して積極的に情報発信していく。

【意見】

- ・ 厚木基地について、その跡地に学園都市を誘致すれば、大和市が神奈川県副都心になれるのではないかと考える。
- ・ 米軍の岩国基地移駐が完了しており、市長には日本飛行機の移転を進めてほしい。

【市長】

- ・ 厚木基地に関しては、返還が大前提で、それが叶うまでの間は、規模を縮小していくことを求めている。
- ・ 本年度4月から、基地対策課を基地政策課に改めた。
- ・ これは問題への対策から、基地に関する政策を推進していくためである。
- ・ 遠い存在ではなく、同じ地域にある身近な存在として、災害時には相互援助するだけでなく、日ごろから顔の見える関係で交流していきたいと考えている。
- ・ 厚木基地の返還については現時点で見通しが示されていないが、返還が実現する場合には、市民の皆さんの声をお聴きした上で判断していく。

【意見】

- ・ タウンミーティングに参加するにあたり、複数の人の意見をまとめてきたのでお伝えする。
- ・ やまと公園やプロムナードの植栽帯が無くなるなど、市内の緑が減ってきているように感じているので、緑の保全をしてほしい。
- ・ 文化都市を目指すのであれば、大学の誘致をしてはどうか。
- ・ のろっと、やまとんGOの本数が減ることを心配する声が多い。
- ・ 高齢化が進む中では、減便ではなく増便するべきである。
- ・ 大和市は平和都市宣言をしているが、世界では戦争が起きており、厚木基地には米海軍や自衛隊がいるので有事の際に標的になる可能性がある。
- ・ アメリカと仲良くすることも大切だが、譲れない部分は明確にNOを提示し

て戦争に巻き込まれないようにしてほしい。

【市長】

- ・ 緑については、人の手が入ってはじめて機能していくものと考えている。
- ・ 大和市は、大小様々な公園があり、雑草の除去などは管理しきれていない場合もある。
- ・ 緑の維持管理は優先順位を付けてやっているが、大和市は都市部なので、産業廃棄物などのごみを捨てられてしまう。
- ・ また、緑が鬱蒼と茂ると見通しが悪くなり、事故や犯罪の温床となる。
- ・ 手付かずの自然ではなく、人の手が入った自然によって、人と自然が共生でき、機能的な緑になると考えている。
- ・ 公園については、都市計画の中で設置しているものもあり、場所によっては「なんで道を挟んで公園が隣り合っているのか」と言われることもある。
- ・ 開発によって設置された公園もあり、管理する公園が増えすぎているので、管理できる数に整理することも、今後は検討していければと考えている。
- ・ コミュニティバスについては、交通弱者に使ってもらいたいと考えているが、若者が座ってお年寄りが立っているというご意見もあるので、あらためて目的を整理し、コミュニティバスの在り方を検討していきたい。
- ・ 大学の誘致については、大和市は活用できる土地がないので、大学の研究所や学部だけでも誘致して、若者を呼び込めたらと考えている。
- ・ 平和については、市の平和事業として、パネル展、ヒロシマ平和学習派遣、ピースリングバスツアー、戦時体験講演会・語り部派遣などを実施しており、戦争を二度と繰り返さないための啓発を行っている。

【意見】

- ・ 市内各地域のリサイクルステーションに関連して、資源の戸別回収に向けた取組の経過や検討状況について、進捗状況を聞かせてほしい。

【市長】

- ・ 資源リサイクルについて、私は“ごみは宝”と考えており、資源をしっかりとリサイクルすることで財源にしていきたい。
- ・ 現在、資源リサイクルは自治会の協力によって成り立っており、心から感謝している。
- ・ リサイクルステーションによって自治会に負担がかかっているのが、なんとか戸別回収にしていきたいと考えているが、リサイクルステーションのままでもよいという自治会もあり、様々な声を集約しているところである。
- ・ 燃やせないごみも、鉄、アルミ、銅など貴重なものが含まれているが、細かく分別するためには費用がかかるため、費用対効果の面も検証している。
- ・ それとは別に、リサイクルステーションの維持管理をしていただいているかたに、もう少し何かしてあげられないかも考えているが、検討に時間がかかっている状況である。
- ・ ここでお伝えするのは心苦しいが、現在の大和市は財源が厳しい状況である。

- ・ 大和市の人口は約24万4千人で、24万5千人の茅ヶ崎市に並ぶまでになっており、県内で7番目の人口となっている。
- ・ 住民が多くなれば市民サービスを利用するかたも当然多くなり、前市長が市民サービスに力を入れていたこともあって、市の歳出は非常に多くなっているのが現状である。
- ・ そういった中では、市の財源を増やしていく必要がある。
- ・ 大和市は事業用地となる土地が少ないが、限られた土地を有効活用することで企業誘致を行うことで、法人市民税、固定資産税を増加させるとともに、企業で働く市民が増えることによる個人市民税も増やしていきたい。
- ・ また、働く場所があると若者も増えるので、にぎわいも創出することができる。
- ・ 子育て、教育、福祉は予算がかかるものであり、その予算をどう確保していくのかが重要となってくる。
- ・ 企業誘致に成功している自治体は財政も潤っており、県下では厚木市が誘致に成功しており、自治体の貯金である財政調整基金が約150億円ある。
- ・ 大和市の財政調整基金は30億円しかない。
- ・ 厚木市の法人市民税は約70億円、大和市は約16億円であり、この差が非常に大きい。
- ・ 厚木市は東名高速道路厚木インターチェンジ、小田原厚木道路、圏央道圏央厚木インターチェンジ、国道246号・129号・412号などがある交通利便性の高い場所であり、約40年前から企業誘致プロジェクトを職員が一丸となって取り組んできた結果である。
- ・ 地方公共団体の財政力を示す財政力指数、自前の財源で賄えるかを示す指数で1を超えると富裕団体となるものが、厚木市は1を超えていて大和市は0.94と1を割り込んでいる状況である。
- ・ 大和市は企業誘致に活用できる土地が少ないが、だからと言って企業誘致をしないのではなく、先ほども出ていたように研究施設など、少ない土地でも誘致は可能と考えている。
- ・ 昨年、人工衛星をつくる宇宙関連企業の工場が中央林間に新設された。
- ・ その企業の社長に「なぜ大和市を選んだのか」を聞いたところ、自然災害に強く相模原のJAXAも近いことや、交通利便性の高さや人口の多さから従業員を集めやすいことなどを理由として挙げていた。
- ・ そういう点も大和市の売りにして、企業誘致を行って財源を確保したい。
- ・ リサイクルステーションの件に話を戻すと、資源の戸別回収について様々な角度から話し合っているが、非常に多くの予算が必要となるため、財政的に厳しい中でどうやって財源を確保するかが課題となっている。
- ・ 現時点では大きな進展がない状況であるが、資源の戸別回収が実現するまでの間は、リサイクルステーションの維持管理をしていただく皆さんの負担感が減り、維持管理に協力するかたが増えるような形にもっていききたい。
- ・ リサイクルステーションについては、昨年度のタウンミーティングでも、

様々のご意見をいただき、職員と話し合ってきている。

- ・ 今回もあらためて、現場のご意見として伺ったので、関係課と共有して対策の検討を続けていく。